

令和2年度 常葉大学 第4回FD・SD研修会（全学共通研修会）報告

日 時	令和2年10月21日（水）	15時10分～16時10分
場 所	常葉大学静岡草薙キャンパス	A201 教室
	静岡瀬名キャンパス	大会議室
	静岡水落キャンパス	第3・4会議室
	浜松キャンパス	トコハホール
講演内容	「学内外の研究活動の活性化に向けて」	
講 師	静岡理工科大学事務局総務部部長兼社会連携課課長 総合技術研究所 地域創生担当部長 久留島 康仁 様	
出席者数	常葉大学静岡草薙キャンパス	133 人
	静岡瀬名キャンパス	19 人
	静岡水落キャンパス	46 人
	浜松キャンパス	111 人
	合 計	309 人

※出席者数には、オンライン（ZOOM）による視聴者、短大部教職員も含む。

「学内外の研究活動の活性化に向けて」をテーマに研究推進委員会と共催で令和2年度第4回FD・SD研修会（全学共通研修会）が開催された。

初めに、重川研究推進委員長から今回の講師の静岡理工科大学事務局総務部部長久留島康仁氏について紹介があった。

続いて、久留島氏から配布資料に沿って下記のとおり説明があった。

1. 大学紹介
2. 社会構造の変化と大学の使命
3. 静岡理工科大学における「研究活動」と「研究支援策」
4. これからの大学における研究はどうあるべきなのか

静岡県唯一の私立理系大学である静岡理工科大学の活動状況をもとに、大学の使命における「研究」及び「地域貢献」の役割を改めて説明された。そして、研究については、静岡理工科大学の研究事例をもとに、学内の研究活性化政策の事例紹介があった。本学の「共同研究」も毎年仕組みを模索しているところであるが、事例で説明されている「提案型教育研究費」は参考になる内容であった。また、外部研究費の獲得状況について、企業との共同研究、受託研究の重要性と組織としての活動方法、及びこれからの大学における研究はどうあるべきなのか？ということに対し、様々な角度から今後の方向性について説明があった。本学においては、文系学部が多数を占め、研究活動より教育、地域貢献のウェイトが多くなる傾向にある。しかし、科学技術基本法（基本法）の見直し（令和3年4月施行）にあるように、「ものづくり」から「ことづくり」への転換の流れがあり、この流れの中で自主性を持って活躍できる人材の養成が大学にもとめられることから、人文科学系も含めた研究活動の活性化が重要であるということを改めて理解する機会となり、研修は終了した。

以上